

サンクトペテルブルク大学図書館所蔵
 モンゴル語写本大蔵經の
 『佛説北斗七星延命經』 訳註

松 川 節

はじめに

インド・チベット仏教圏の最北に位置するモンゴルにおいて、仏教がいかなる隣接文化圏を通じて伝播・弘通していったかを明らかにするためには、モンゴル仏典がいかなる翻訳原典を持ち、いかなる過程を経てモンゴル語に翻訳されたかを追跡することが有効だと思われる。

16世紀後半に南モンゴル・トゥメド地方のアルタン＝カーンがチベット仏教ゲルク派の施主となって以来、チベット仏教はモンゴルに大きな影響を及ぼしはじめ、17～18世紀になると、大量のチベット仏典がモンゴル語に翻訳された。

一方、それに先立つ13～14世紀の元朝の時代にもモンゴル仏典が存在していたことは知られている [金岡1989:313] が、その成立過程、言い換えれば、最初期のモンゴル仏典の来歴については、不明な点が多かった。

これに対して、16世紀後半以降に書写されたモンゴル仏典のなかで、いわゆる「古風な」特徴をもつものに古代ウイグル語仏教用語がより多く借用されており、しかもその借用形式は明白に古代ウイグル語経由であることを物語っている [庄垣内1990] ため、13～14世紀の初期モンゴル仏典の成立においてウイグル仏典が強い影響を与えたことは間違いない。しかしながら、13～14世紀にウイグル仏典の強い影響を受けつつ成立したモンゴル仏典のほとんどは15～16世紀のあいだに失われてしまい、伝存しているのは、16世紀後半以降にチベット仏教の影響下で大幅な改変・改訳を被ったものがほとんどなのである。

ところで、いくつかのモンゴル仏典は、その跋文において、翻訳が元朝期の14世紀前半に行なわれたことを伝えている [Kara 1981]。そうした仏典のひとつとして、筆者は『佛説北斗七星延命經』 (Taisho 1307) のモンゴル語訳に注目した。中国撰述仏教文献『佛説北斗七星延命經』は、もともとは中国の民間信仰

に起源をもつ。14世紀前半の元朝治下、漢文原典がウイグル語・モンゴル語・チベット語に翻訳された。漢文原典じたいは北宋時代の刊本が見つかっており、ウイグル語テキストはまさに14世紀のものが出土している。14世紀のモンゴル語テキストは見つかっていないが、チベット語テキストは15世紀初頭の北京永楽版チベット大蔵經（仏説部）所収のものが知られており、その跋文によると、モンゴル語訳は天曆元年（1328）になされたことがわかる。こうした「多言語訳仏教文献」の各言語テキストが相互にいかなる関係を有しているかを解明することができれば、初期モンゴル仏教の成立において周辺（中国・ウイグル・チベット）の仏教文化がいかに関与したかを明らかにできるはずである。

本稿の目的は、この仏教文献の伝存するモンゴル語訳テキストのうち、14世紀の最初の翻訳の要素を最も色濃く残している、ロシア、サンクトペテルブルク国立大学東方部図書館に所蔵される未発表のモンゴル語写本大蔵經カンジュル（仏説）部所収テキストの訳註を試み、基礎的研究とすることにある。

『佛説北斗七星延命經』 解題

『佛説北斗七星延命經』は中国で撰述された密教經典である。そこには北斗七星司命説・属星説といった中国民間信仰起源の思想が取り入れられており、經典を誦し、北斗七星を献祭することによって庶民生活の安寧と長寿が保障されると説かれている。冒頭に「婆羅門僧將到此經唐朝受持」と書かれているが、經名に「佛説」が冠されていることからわかるとおり、本經典は仏教教義の裏付けをもたない、いわゆる「偽經」である [Lévi 1908]。仏教教義の伝播とは直接関わらないものとして仏教史学の立場からはほとんど注目されなかったが、実際には、このような偽經はその平易な内容のゆえにかえって人口に膾炙し、多言語にまで翻訳されるにいたったと思われる。

『佛説北斗七星延命經』は漢文テキストの内容を核として、ウイグル語、モンゴル語、チベット語テキストにおいて共通して増広されており、またそれぞれの言語に翻訳された由を記す跋文が付加されている。ここでは、フランケ H. Franke がモンゴル語テキストに基づいて行なった内容分類 [Franke 1990] に依拠しつつ、本經典の内容見出しを掲げる。

A. 經題（漢語・モンゴル語・チベット語）；仏が童子文殊菩薩を対告衆として

經典の内容を説く。

- B. 七星の名称、人の生年の干支による七星おのおのへの配当、献祭すべき穀物、護符携帯の必要。
- C. 七星如来仏への礼拝、読誦すべき総持。
- D. この經典が持つ威力、受持・供養・転読すると生じる効験。
- E. 五行の元素と色との対応関係。
- F. 北斗七星讚歌
- G. 北斗七星燈儀日
- H1. モンゴル語訳跋文
- H2. チベット語訳跋文

以上はモンゴル語テキストに沿って内容を一覽にしたものであって、他言語テキストでは内容が異なったり入れ替わる箇所も存在する。最も大きな特色は、漢文テキストにはA～Eのみが存在し、FとGは胡語テキストにおける増広と考えられる点である。

モンゴル語テキスト解題

モンゴル語訳『佛説北斗七星延命經』の存在は、ラウファー B. Laufer によって、チベット訳本の跋文の記述に基づき、1907年から予言されていた [Laufer 1907] が、1921年にウラジーミルツォフ V. Ya. Vladimirtsov は、実際にその写本と刊本がそれぞれペテログラードとパリに存在するモンゴル語大蔵經に含まれていることを学界に報告した [Vladimirtsov 1921]。

1930年以降、モンゴル仏典の目録作成がリゲティ L. Ligeti によって開始されると、モンゴル語大蔵經に限らず、18世紀到北京でさかんに開板されたいわゆる「街版」の仏典集にもこの經典が含まれていることが明らかになっていった [Ligeti 1930a, 1930b, 1934, 1942-44, 1954]。1980年代になって世界の主だった図書館のモンゴル語蔵書目録が出せようと、その記述より本經典のモンゴル語テキストは世界に10種類以上現存していることが判明した。しかしこれらのテキストは、17～18世紀にチベット仏教学の影響を受けてモンゴル仏典が改訳・整理されていく時代に成立したものばかりであり、初めて翻訳された14世紀のテキストそのものは発見されていない。

『佛説北斗七星延命經』Reconstructed Chinese Text

	Mong. & Tib.	Chin. (Underline corresponds to Uighur version)		
A	[1]-[3]	[1] [2] [3]		
	[4]-[6]	[title]佛説北斗七星延命經		
	[7] [8]	[0]婆羅門僧將到此經唐朝受持。		
B	[9]-[50]	[9]貪狼星, [11]子生人, 向此星下生, [12]祿食黍, [13]有厄宜供養此經及帶本星符, [14]大吉, [15]巨門星, [17]丑生亥生人, 同向此星下生, [18]祿食粟, [19]有厄宜供養此經及帶本星符, [20]大吉, [21]祿存星, [23]寅生戌生人, 同向此星下生, [24]祿食粳米, [25]有厄宜供養此經及帶本星符, [26]大吉, [27]文曲星, [29]卯生酉生人, 同向此星下生, [30]祿食小麥, [31]有厄宜供養此經及帶本星符, [32]大吉, [33]廉貞星, [35]辰生申生人, 同向此星下生, [36]祿食麻子, [37]有厄宜供養此經及帶本星符, [38]大吉, [39]武曲星, [41]巳生未生人, 同向此星下生, [42]祿食大豆, [43]有厄宜供養此經及帶本星符, [44]大吉, [45]破軍星, [47]午生人, 向此星下生, [48]祿食小豆, [49]有厄宜供養此經及帶本星符, [50]大吉。		
	C	[51]-[78]	[51]南無貪狼星, [52]是東方最勝世界蓮意通證如來佛, [53] [54] [55]南無巨門星, [56]是東方妙寶世界光音自在如來佛, [57] [58] [59]南無祿存星, [60]是東方圓滿世界金色成就如來佛, [61] [62] [63]南無文曲星, [64]是東方無憂世界最勝吉祥如來佛, [65] [66] [67]南無廉貞星, [68]是東方淨住世界廣達智辨如來佛, [69]真言曰, [70]唵帝婆那吉那羅婆娑訶, [71]南無武曲星, [72]是東方法意世界法海遊戲如來佛, [73]真言曰, [74]唵咄都齊陀婆娑訶, [75]南無破軍星, [76]是東方琉璃世界藥師琉璃光如來佛, [77]真言曰, [78]唵毗舍那□□瓊婆娑訶。	
		D	[79]-[102]	[79]若遇行年災厄禮此經七拜, [81]爾時佛告文殊師利菩薩, [82]所說此經, 有大威神有大威力, [83]能救一切眾生重罪, [84]能滅一切業障, [85]若有比丘僧比丘尼宰官居士善男子善女人, 若貴若賤大小生命, 皆屬北斗七星所管, [86]若聞此經受持供養轉讀, 勸於朋友親族骨肉受持者現世獲福, [87]若善男子善女人或先亡過者墮於地獄, 或受種種苦楚, 若聞此經信敬供養, 即得先亡離於地獄, 生於極樂世界, [88]若有善男子善女人或被鬼魅所侵邪魔所媿, 惡夢怪異魂魄驚恐, 若聞此經受持供養, 即得魂魄安寧, [89]永無恐怖, [90]若善男子善女人或有仕官身役差發征行, 若遇此經信敬供養, 即得仕官高遷甚大吉, [91]若善男子善女人, 或是疾病纏身, 欲求輕差, 當於淨室燒香供養此經, 疾病痊癒, [92]若善男子善女人, 欲得進達及以出行經紀, 求財稱遂興生貨賣, 若遇此經信敬供養, 即得求財稱, [93]遂出入大吉, [94]若有善男子善女人, 或養蠶虛耗六畜不安, 即於淨室燒香供養此經, 即得田蠶遂意六畜孳榮, 永無損失, [95]亦無災障, [96]若有女人懷胎難月, 若遇此經信敬供養, 即得母子分解厄難消除, [97]所生兒女, 皆得端正長命果報, [98]若善男子善女人, 須知北斗七星管人生命, [99]一生之中所有災厄, 官事口舌金鳴百怪, 若遇此經信敬供養, 一無妨害, [100]爾時文殊師利言善男子善女人恭敬信受作禮而散, [101] [102]佛説北斗七星延命經。
			E	[103]-[107] [103]金命人白幡子, [104]木命人青幡子, [105]水命人黑幡子, [106]火命人赤幡子, [107]土命人黃幡子。
			F	[108]-[118] [108] [109] [110] [111] [112] [113] [114] [115] [116] [117] [118]
			G	[119]-[132] [119] [120] [121] [122] [123] [124] [125] [126] [127] [128] [129] [130] [131] [132]
			H1	Mong. colophon [A1]-[A10]
			H2	Tib. colophon [B1]-[B6]

そのなかで現存する最も古いテキストが、サンクトペテルブルク国立大学東方部図書館所蔵モンゴル語写本大蔵経 [Uspenskij 1988, p. 196, Kas'yanenko 1993] 所収のものである。この写本大蔵経が書写された年代ははっきりしていないが、そのオリジナルは、リグデン・カーンの命により1628-29年に編纂されたモンゴル語大蔵経であることが判明している [Heissig 1962, 1973] 。

テキスト訳註

・モンゴル語テキストの底本としてサンクトペテルブルク国立大学東方部図書館所蔵モンゴル語写本大蔵経（全113巻）の第103巻（Eldeb gelmeli 【=諸経部】 XXXI） 85r.-86r., Kas'yanenko No. 851 [Kas'yanenko 1993, p.259] を用いた。

・モンゴル語テキストの対校（ページ下欄）には、北京版モンゴル大蔵経カンジュル（仏説）部（1717-1720年）所収テキスト（東洋文庫所蔵本並びにその影印本 [Chandra 1973-79, vol.192, fols. 378v.-383r.] ; Ligeti No. 1123 [Ligeti 1942-44] ）を利用し（略号MP）、同時にリゲティによるその転写テキスト [Ligeti 1967, pp. 103-114] をも参照した。

・漢文テキストは、『大正新脩大蔵経』所収本（巻21、pp. 425b-426b, Taisho No. 1307）を利用した。なお、前ページの Reconstructed Chinese Text は、高山寺に所蔵される写本（臺第二、五十三、高山寺経藏、第六一函、重文第一部、第七一號『北斗七星延命経』） [高山寺典籍文書総合調査団（編）1973, p. 63, No.71] 及び、中国で新たに発現した北宋時代の刊本断簡 [趙冬生 1994] により補ったものである。

・チベット語テキストについては、北京（康熙）版チベット・カンジュル（1718-1720年）所収テキスト（大谷大学図書館所蔵本、vol. 40, 甘殊爾諸経部 14, fols. 286v-290r 並びにその影印本 [鈴木学術財団（編）1955-61, vol. 40, pp. 370-372] ; Otani No. 1028）を用い（略号TP）、同時にパンルン J. Panglung によるその転写テキスト [Panglung 1991] をも参照した。

・ウイグル語テキストは、ラフマティ G. R. Rachmati による校訂テキスト [Rachmati 1937, Nr. 14, Anmerkungen 14, Nr. 40] とツィーメ P. Zieme による追加新発見テキスト [Zieme 1981, pp. 390-391, Zieme 1985, Zieme1994] を利用した。

[A]

(85r.)

[1] namo buddhay-a-y-a¹ ∴ ∴ ∴

仏に帰依す。

[2] namo dharma-y-a-y-a² ∴ ∴ ∴

法に帰依す。

[3] namo³ sangghay-a-y-a⁴ ∴ ∴ ∴

僧に帰依す。

[4] Kitad-un⁵ keleber : bei deu⁶ či sing ging :

中国の言葉で『北斗七星経』。

[5] Mongyol-un keleber : doloγan ebügen neretü odun⁷ sudur

モンゴルの言葉で『7人の老人という名を持つ星の経』。

[6] Töbed-ün keleber : smebdun⁸ sis⁹ byab-a yi¹⁰ skarm-a yi¹¹ amdo¹² :

チベットの言葉で『7つの痣という星の経』。

[7] doloγan tegünčilen iregsen-tür¹³ mörgümü :

七如来に礼拝する。

[8] tendeče ilaju tegüs nöğčigsen tngri-yin tngri burqan jalaγu Manjusiri¹⁴

それより世尊・天神の天神たる仏陀は童子文殊

budisung-tür¹⁵ jarliy bolur-un :

菩薩にお命じになった：

[B]

[9] doloγan ebügen neretü odun angq-a terigün tamlang¹⁶ neretü

「7人の老人という名を持つ星の第一は貪狼という名の

¹buddhay-a ²dharmay-a ³nam-aḥ ⁴sangghay-a ⁵Nanggiyad-un ⁶deu ⁷odun-u ⁸smi dun ⁹zis ¹⁰byau-a ¹¹skarmai ¹²mdô ¹³iregsen-dür ¹⁴Mañjuśrī ¹⁵bôdhi-saduva-dur ¹⁶tan-lang

odun bui : **[10]** tegün-ü sakiyan bui¹⁷ anu¹⁸ ene bui **[11]** quluyan-a jil-tü
星である。その護符はこれである。ネズミ歳生まれの

kümün ene odun-tur¹⁹ qariy-a-tu törömüi : **[12]** takiqi idegen künesün anu²⁰
人はこの星に所属して生まれる。捧げる食物は

mongyol amun bui : **[13]** ada todqar bolbasu ene bičig-i takiju
モンゴル穀物【=黍】である。魔障あればこの書を奉り、

sakiyan bui²¹ : buu²² inu bey-e-tegen²³ jegügdeküi : **[14]** ada todqar anu²⁴
護符(符)は身につけるべきである。魔障は

usadçu ayui yeke bayasqulang-tu boluyu :
消えて非常に大きな喜びを持つことになる。

[15] nöögöge ku-m'in²⁵ neretü odun bui : **[16]** tegün-i sakiyan buu²⁶
第二は巨門という名の星である。その護符は

ene buyu : **[17]** üker jil-tü kiged yaqai jil-tü kümün
これである。ウシ歳生まれとブタ年生まれの人は

ene odun-tur²⁷ qariy-a-tu törömüi : **[18]** takiqi²⁸ idegen künesün anu²⁹
この星に所属して生まれる。捧げる食物は

qonoγ amun bui : **[19]** ada todqar bolbasu : ene <nom> bičig-i takiju
粟穀物である。魔障あればこの経書を奉り、

sakiyan buu³⁰ anu³¹ bey-e-tegen³² jegügdeküi **[20]** ada todqar inu usadçu
護符は身につけるべきである。魔障は消えて

ayui yeke bayasqulang-tu boluyu :
非常に大きな喜びを持つことになる。

¹⁷ cakr-a ¹⁸ inu ¹⁹ odun-dur ²⁰ inu ²¹ omüt bui ²² cakr-a ²³ bey-e-degen ²⁴ inu ²⁵ giuu-men ²⁶ cakr-a inu
²⁷ odun-dur ²⁸ tegün-i takiqi ²⁹ inu ³⁰ cakr-a ³¹ inu ³² bey-e-degen

[21] *γudayar luus-un³³ neretü odun bui* : **[22]** *tegüni³⁴ sakiyan buu³⁵ inu* :
 第三は 祿存 という名の 星 である。 その 護 符 は

ene buyu : **[23]** *bars jiltü³⁶ kümün ene*
 これ である。 トラ 歳生まれ【とイヌ歳生まれ】の 人 は この

odun-tur³⁷ qariy-a-tu törömüi : **[24]** *takiqi idegen künesün inu tutury-a buyu* :
 星 に 所属して 生まれる。 捧げる 食 物 は 米 である。

[25] *ada todqar bolbasu ene bičig-i³⁸ takiju sakiyan buu³⁹ inu bey-e-tegen⁴⁰*
 魔 障 あれば この 書を 奉り、 護 符 は 身 に

jegügdeküi : **[26]** *ada todqar inu usadču ayui yeke*
 つけるべきである。 魔 障 は 消えて 非常に 大きな

bayasqulang-tu boluyu ∴
 喜びを持つ ことになる。

[27] *dödüger ün-kü⁴¹ neretü odun bui* **[28]** *tegün-ü sakiyan buu⁴² inu*
 第四は 文曲 という名の 星 である。 その 護 符 は

ene bui : **[29]** *taulai⁴³ büged takiy-a jil-tü⁴⁴ kümün ene*
 これ である。 ウサギ と トリ 歳生まれの 人 は この

odun-tur⁴⁵ qariy-a-tu törömüi : **[30]** *takiqi idegen künesün inu*
 星 に 所属して 生まれる。 捧げる 食 物 は

burudai buyu : **[31]** *ada todqar bolbasu ene nom bičig-yi takiju sakiyan buu⁴⁶*
 麦 である。 魔 障 あればこの 經 書を 奉り、 護 符

inu jegügdeküi⁴⁷ : **[32]** *ada todqar inu usadču ayui yeke*
 は 身につけるべきである。 魔 障 は 消えて 非常に 大きな

³³ lu-čün ³⁴ tegün-ü ³⁵ cakar-a ³⁶ jil-tü böged noqai jil-tü ³⁷ odun-dur ³⁸ nom bičig-i ³⁹ cakar-a ⁴⁰ bey-e-degen ⁴¹ ün-k'iuu ⁴² cakar-a ⁴³ taulai jil-tü ⁴⁴ jil-tü ⁴⁵ odun-dur ⁴⁶ cakar-a ⁴⁷ bey-e-degen jegügdeküi

bayasqulang-tu boluyu ∴

喜びを持つ ことになる。

[33] tabduyar luus-un⁴⁸ neretü odun bui : **[34]** tegün-ü sakiyan buu⁴⁹

第五 は【廉貞】という名の星である。その護符

inu ene buyu : **[35]** luu jil-tü kiged mečin jil-tü kümün

はこれである。タツ歳生まれとサル歳生まれの人は

ene odun-tur⁵⁰ qariy-a-tu törömüi : **[36]** takiqi idegen künesün inu

この星に所属して生まれる。捧げる食物は

olusun-u ür-e buyu : **[37]** ada tođqar bolbasu ene bičig-i⁵¹ takiju

麻の実である。魔障あればこの書を奉り、

sakiyan buu⁵² inu bey-e-tegen⁵³ jegügdeküi : **[38]** ada tođqar inu usadču

護符は身につけるべきである。魔障は消えて

ayui yeke bayasqulang-tu boluyu ∴

非常に大きな喜びを持つことになる。

[39] [jir]yudaŋar vuu-keu⁵⁴ neretü odun bui : **[40]** tegünü sakiyan

第六は武曲という名の星である。その護

buu⁵⁵ ene buyu : **[41]** qonin jil-tü kiged moyai jil-tü kümün

符はこれである。ヒツジ歳生まれとヘビ歳生まれの人は

ene odun-tur⁵⁶ qariy-a-tu törömüi : **[42]** tegünü⁵⁷ idegen inu künesün inu

この星に所属して生まれる。その食(は)物は

qar-a burčay buyu : **[43]** ada tođqar bolbasu ene nom bičig-i takiju

黒豆である。魔障あればこの経書を奉り、

⁴⁸ liyen-čem ⁴⁹ cakr-a ⁵⁰ odun-dur ⁵¹ nom bičig-i ⁵² cakr-a ⁵³ bey-e-degen ⁵⁴ vauu-k'iuu ⁵⁵ cakr-a
⁵⁶ odun-dur ⁵⁷ takiqi

sakiyan buu⁵⁸ inu bey-e-tegen⁵⁹ ĵegügedküi : [44] ada tođqar inu usadču
護符は身につけるべきである。魔障は消えて

aγui yeke bayasqulang-tu boluyu ∴
非常に大きな喜びを持つことになる。

[45] doloduγar buu-gün⁶⁰ neretü odun bui : [46] tegün-ü sakiyan buu⁶¹
第七は破軍という名の星である。その護符

inu ene buyu : [47] morin ĵil-tü kümün ene odun-tur⁶²
はこれである。ウマ歳生まれの人はこの星に

qariy-a-tu törömüi : [48] takiqui idegen künesün inu noγoγan burčay
所属して生まれる。捧げる食物は緑豆

buyu : [49] ada tođqar bolbasu ene nom bičig-yi takiju sakiyan buu⁶³ inu :
である。魔障あればこの經書を奉り、護符は

bey-e-tegen⁶⁴ ĵegügedküi : [50] ada tođqar usadču aγui yeke
身につけるべきである。魔障は消えて非常に大きな

bayasqulang-tu boluyu ∴
喜びを持つことになる。

[C]

[51] edüge bida mörgümü : tamlang⁶⁵ neretü odun-u qutuγ-tur :
今、我らは礼拝する。貪狼という名の星の御位に。

[52] či kemebesü doron-a-tu⁶⁶ eteged qamuγ-ača neng sayin yirtinčü-tür⁶⁷ :
汝はと言えば東方最勝世界に

⁶⁸oron ečige-yin⁶⁸ erdem-i tuγuluγsan burqan-u qubilγan buyu či :
智力の徳を完成させた私の化身である、汝は。

⁵⁸ cakar-a ⁵⁹ bey-e-degen ⁶⁰ p'o-ĵiyün ⁶¹ cakar-a ⁶² odun-dur ⁶³ cakar-a ⁶⁴ bey-e-degen ⁶⁵ tan-lang ⁶⁶ doron-a-du ⁶⁷ yirtinčü-dür ⁶⁸ oyun erke-yin

[53] tarni⁶⁹ ene bui ∴ [54] ⁷⁰nam-a-aḥ samanda buda nam oom amiduvay-a
 総持はこれである。

suvaq-a⁷⁰ ∴

[55] mörgümü : bida küü-min⁷¹ neretü odun-u qutuγ-tur :
 礼拝する。我らは巨門という名の星の御位に。

[56] či kemebesü doron-a-tu⁷² eteged tangsuγ quri-čaydaqui⁷³ erdeni-tü
 汝はと言えば東方の妙なる宝もつ

yirtinčü-tür⁷⁴ gegen dayun-tur⁷⁵ erketü neretü burqan-u
 世界に(おける)光と音に自在たるという名を持つ仏の

qubilγan buluyu⁷⁶ či : [57] tarni anu⁷⁷ ene buyu ∴
 化身である、汝は。総持はこれである。

[58] ⁷⁸nam-a-aḥ samanda buda nan oom čanda qung yi suvaq-a⁷⁸ ∴

[59] mörgümü bida luus-un⁷⁹ neretü odun-u qutuγ-tur : [60] či
 礼拝する。我らは祿存という名の星の御位に。汝

kemebesü dorona-tu⁸⁰ eteged deleger dügüreng saran⁸¹ adali
 はと言えば東方の満月の如き

yirtinčü-tür⁸² oγuyata tuγuluγsan altan önggetü neretü
 世界に(おける)永遠に成就した金色という名を持つ

burqan⁸³ qubilγan buyu či : [61] tarni inu ene buyu ∴
 仏の化身である、汝は。総持はこれである。

⁶⁹ tarni inu ⁷⁰ nam-aḥ samanda budda nam oṃ amidabay-a süva-h-a ⁷¹ k'iuu-min ⁷² doron-a-du ⁷³ bolquī ⁷⁴ yirtinčü-dür ⁷⁵ dayun-dur ⁷⁶ buyu ⁷⁷ inu ⁷⁸ nam-aḥ samanda budda nam oṃ čüida huum ni süva-ha-a ⁷⁹ lu-cun ⁸⁰ doron-a-du ⁸¹ saran-dur ⁸² yirtinčü-dür ⁸³ burqan-u

[62] ⁽⁸⁴⁾nam-a-aḥ samanda buda nan oom ninirti akatan-a bar-a maru tu suu suvaq-a⁽⁸⁴⁾ ∴

[63] mörgümü bida ün-küü⁸⁵ neretü odun-u qutuγ-tur : **[64]** čī
礼拝する。我らは 文曲 という名の星の御位に。 汝

kemebesü doron-a-tu⁸⁶ eteged gimüriküi⁸⁷ ügei yirtinčü-tür⁸⁸ :
はと言えば 東方の憂慮なき世界に(おける)

qamuγ-ača degetü⁸⁹ üljei qutuγ ner-e-tü⁹⁰ burqan-u qubilyan buyu čī
最勝吉祥という名を持つ仏の化身である、汝は。

[65] tarni inu ene buyu : **[66]** ⁽⁹¹⁾nam-a-aḥ samanda buda nan : oom 'YY-' 'Š-'
総持はこれである。

süva-h-a⁽⁹¹⁾ ∴

(85v.) **[67]** mörgümü bida lim-čin⁹² odun-u qutuγ-tur : **[68]** čī kemebesü
礼拝する。我らは 廉貞星の御位に。 汝はと言えば

doron-a eteged ariγun tegüs ⁽⁹³⁾orosiy-san yirtinčü⁽⁹³⁾ dürbel ügei :
東方の清浄に満ちた世界(における) 障碍なき

uqayan bilig-iyer nebtelügsen neretü burqan-u qubilyan buyu čī :
才智に通暁したという名を持つ仏の化身である、汝は。

[69] tarni anu⁹⁴ ene buyu : **[70]** ⁽⁹⁵⁾nam-a-aḥ samanda buda nan oom bradi čara
総持はこれである。

maran-a suvah-a⁽⁹⁵⁾ ∴

⁸⁴ nam-aḥ samanda budda nam oṃ nimirini aka ta-na bar-a marutu suu süva-ha-a ⁸⁵ ün-k'euu ⁸⁶ doron-a-du ⁸⁷ gemüriküi ⁸⁸ yirtinčü-dür ⁸⁹ degedü ⁹⁰ neretü ⁹¹ nam-aḥ samanda budda nan oṃ beha süva-ha-a ⁹² liyen-jam neretü ⁹³ oron-dur ⁹⁴ inu ⁹⁵ nam-aḥ samanda budda nam oṃ brati tsar-a maran-a süva-ha-a

[71] mörgümü : bida ^{(96)quu-güü⁹⁶} neretü odun-u qutuγ-tur **[72]** či
 礼拝する。我らは 武曲 という名を持つ 星の 御位 に。 汝

kemebesü doron-a-tu⁹⁷ eteged ^{(98)nom aṛel-tü⁹⁸} yirtinčü-tü⁹⁹ nom-un
 はと云えば 東 方 の 法 意 (に) 世界 に (おける) 法 の

dalai-tur¹⁰⁰ čenggečiči¹⁰¹ tegünčilen iregsen Sigemüni¹⁰²-yin qubilyan buyu
 海 に 遊ぶ 如 来 シャキヤムニの 化身 である、

či : **[73]** tarni inu ene buyu : **[74]** ^{(103)nam-a-ḥ samanda buda nan oom sarin}
 汝は。 総持 は これ である。

dar-a samay-a suvaq-a¹⁰³ ∴

[75] mörgümü bida ^{(104)buu-gün¹⁰⁴} neretü odun-u qutuγ-tur
 礼拝する。我らは 破軍 という名を持つ 星の 御位 に。

[76] či kemebesü doron-a-tu¹⁰⁵ eteged vidury-a¹⁰⁶ erdenis-iyer bütügšen
 汝はと云えば 東 方 の 瑠璃 宝 で 造られた

yirtinčü-tü¹⁰⁷ : otočin-u¹⁰⁸ qaγan vidury-a¹⁰⁹ genel-tü burqan-u qubilyan
 世界 に (おける) 薬 師 瑠璃 光 仏 の 化身

buyu či : **[77]** tarni inu ene buyu : **[78]** ^{(110)nam-a-ḥ samanda buda nan :}
 である、汝は。 総持 は これ である。

oom sabita bir-a miniča suvaq-a¹¹⁰ ∴

⁹⁶ 'uu-k'ēuu ⁹⁷ doron-a-du ⁹⁸ nom-dur bisirel-tü ⁹⁹ yirtinčü-dür ¹⁰⁰ dalai-dur ¹⁰¹ činggečiči ¹⁰² Šakyamuni ¹⁰³ nam-aḥ samanda budda nam oṃ sarin dhar-a samay-a süva-ha-a ¹⁰⁴ po-jiyün ¹⁰⁵ doron-a-du ¹⁰⁶ biidury-a ¹⁰⁷ yirtinčü-dü ¹⁰⁸ otačin-u ¹⁰⁹ biidury-a ¹¹⁰ nam-aḥ samanda budda nan oṃ sabita bar-a miniča süva-ha-a

[D]

{79} ked ber kümün öber-ün jil-ün yabudal-un ada uçirabasu : tendeče
 もしも 人 が 自 分 の 歳 の 経 過 の 障 碍 に 出 会 え ば 、 そ の と き

tere kümün ene¹¹¹ erdeni-tü¹¹² doloγan-da mörgügdeküi : {80} qamuy
 そ の 人 は こ の (經) 宝 に 7 回 礼 拜 す べ き で あ る 。 一 切 の

ada tođqar amurlıju oduγad¹¹³ : {81} tngri-yin tngri burqan
 魔 障 は 静 ま っ て ゆ き 、 天 神 の 天 神 た る 仏 は

Manjusiri¹¹⁴ bodisung-tur¹¹⁵ jarliy bolur-un : {82} Manjusiri¹¹⁶ a minu
 文 殊 師 利 菩 薩 に お 命 じ に な る に : 「 文 殊 師 利 よ ! 我 れ の

nomlayşan ene sudur : nom-ud¹¹⁷ degedü čoy-tu ilbüsü-tü¹¹⁸ yeke
 説 いた こ の 經 典 (の) 最 上 な る 威 光 (は) 大 き な

küčütü buyu : {83} qamuy amitan-u endegsen-ü¹¹⁹ erigü¹²⁰
 力 を 持 つ の で あ る 。 一 切 衆 生 の 犯 し た 罪

gem-üd-tür ibegen qasiyan boluyči buyu : {84} qamuy nigül-i¹²¹
 障 対 して 庇 護 ・ 頼 り と な る も の で あ る 。 一 切 の 罪

tüidker-tü : adasun¹²² ügei¹²³ tüligen-i taqayuluyči amurlıyuluyči
 障 対 して 悪 魔 達 の 宿 債 を 取 り 立 て る も の 、 鎮 め る も の

buyu : {85} ¹²⁴toyin simananča ubasi ubasanča¹²⁴ noyad esi kiged :
 で あ る 。 比 丘 ・ 比 丘 尼 ・ 居士 ・ 女 居士 、 主 人 及 び

bayaliy-ud¹²⁵ er-e em-e ba ¹²⁶nereten aldar-dan¹²⁶ kiged boyda¹²⁷ degedü
 富 貴 な る 男 女 と 高 名 な る 者 ど も と 、 聖 な る

¹¹¹ ene ¹¹² erdeni-dür ¹¹³ jiryaqu boluy ¹¹⁴ Mañjuśrii ¹¹⁵ bodhi-saduva-dur ¹¹⁶ Mañjuśrii ¹¹⁷ nom-ud-un ¹¹⁸ genel ¹¹⁹ endegsen ¹²⁰ eregüü ¹²¹ nigül ¹²² adas-un ¹²³ öri ¹²⁴ ayay-q-a tegimlig eke ayay-q-a tegimlig ¹²⁵ balyasun-u ¹²⁶ aldar ner-e-ten ¹²⁷ buyan

noyaytai ba qatud¹²⁸ kiged : kündü-legdekün¹²⁹ : yeke üčügen alimad
 貴族 と 夫人たち 及び 尊敬される者、 大 小 の いかなる

[86] ken ber ene nom-i sonosçu : surçu toytayaju öber-ün
 誰 も が この 経を 聞き、 習い、 記憶し、 自

bey-e-ber takibası ulam basa nökor següder öri¹³⁰ sadud-ıyan
 身 で 供養すれば、さらにまた 朋友 ・ 親族 を

surçu¹³¹ suyurqabası¹³² toytayajulbası ene buyan-u sayın açi ür-e-yi¹³³ kü
 啓蒙し、 習わせれば、 記憶させれば、この 福德の 良き 果をぞ

jayayan-tur¹³⁴ oluyı : **[87]** ked ber ijayur-danu¹³⁵ köbegüd
 (現)世において 得る。 もしも 名門の生まれの 男子、

ıjayur-danu¹³⁶ ökid tedeger süidügsed¹³⁷ tamu-tur¹³⁸ töröjü
 名門の生まれの 女子、 彼ら 荒廃し者たちが 地獄に 生まれ、

eldeb yasiyun jobalang-ud-tur kürtegsed-ün tulada : ene nom-un
 様々な 困 苦 に 苛まされた者たちの ために、 この 経

biçig-i bisirel sedkil-ıyer kündülen takibası tendeçe
 書 を、 信仰 心を持って 敬い、 供養すれば、それより

teden-ü sür sünesün tamu-yin jobalang-aça tonilju könggejü
 彼らの 魂 魄 は地獄の 苦しみから 脱して自由になり、

masi jıryalang-tu yirtinçü-tür¹³⁹ Abida burqan-u ulus-tur törömüi :
 非常に 喜びにあふれた 世界 に、阿弥陀 仏の 国に 生まれる。

[88] kedber boydas-un¹⁴⁰ ökid : eliy-e čidkür-e basuydaysad ba
 もしも 聖者たちの娘たちが 魑 魅 に 蔑視された者たちと

¹²⁸ qatuytai ¹²⁹ kündülegdekün ba ülü kündülegdekün ¹³⁰ omitted ¹³¹ suyuju ¹³² suryaju ¹³³ ür-e

¹³⁴ ene jayayan-dur ¹³⁵ ijayur-tan-u ¹³⁶ ijayur-tan-u ¹³⁷ süidügsen ¹³⁸ tamu-dur ¹³⁹ yirtinçü-dür

¹⁴⁰ ijayur-tan-u köbegüd ijayur-tan-u

örigü¹⁴¹ simnus-a jöbayuldaysad kiged : mayui jëgüdülebesü¹⁴² : buruγu
 妖 魔 に 悩まされる者たち とが 、 悪 夢を見るなら 、 凶

iru-a üjgebesü oyun sedkil inu <sup>(143)ürgügdebesü bilingdebesü¹⁴³⁾ : ene nom
 兆 が 見えるなら 、 精 神 が 畏怖するなら、 この 經</sup>

bičig-i sonosču surču toγtayabasu takibasü : tede adas-ača
 書 を 聞き 、 習い 、 記憶すれば 、 供養すれば 、 彼らは 魔より

tonilju könggejü <sup>(144)oron sedkiju¹⁴⁴⁾ anu¹⁴⁵ nuta amurlıqu boluyu :
 脱して 自由になり 、 精 神 は 確実に 静まる ことになる 。</sup>

[89] <sup>(146)ürgükü bilingdekü¹⁴⁶⁾ inu oγoyata usaduyu¹⁴⁷ ∴
 畏怖すること は 永遠に 消える 。</sup>

[90] ked ber ijaγur-danu¹⁴⁸ köbegüd ijaγur-danu¹⁴⁹ ökid ali
 もしも 名門の生まれの 男子 、 名門の生まれの 女子、どこの

ken ber bügesü öber-iyen noyan esi-tür tus bolju <sup>(150)inin-e čaqada¹⁵⁰⁾
 誰 であっても、自分 の 主人 に 益し 、 ????? に</sup>

nökör bolsuγai kemen küsejü yabun бүкүй-түр¹⁵¹ : jiči j̄arudasun
 友 となろう と 望んで 行動していると、同様に、 召使いに

bolbasu : tere kümün ene nom bičig-tür učiraju bisirel sedkil-iyer
 なれば、その 人 は この 經 書 に 出会って 信仰 心を持って

kündülebesü takibasü : tendeče noyan esi-tür¹⁵² oyir-a inay bolju
 敬えば 、 供養すれば、それより 主人 に 近しく なり、

ner-e aldar inu nemegejü aldarsiju yeke¹⁵³ bayasqulang-tu boluyu :
 名 声 は 加わって 広まり、大きな 喜びを持つこと になる 。

¹⁴¹ örigüü ¹⁴² jëgüdün jëgüdülebesü ¹⁴³ ayun emiyebesü ¹⁴⁴ oyun sedkil ¹⁴⁵ inu ¹⁴⁶ ayuqu emiyekü ¹⁴⁷ usaduyu ¹⁴⁸ ijaγur-tan-u ¹⁴⁹ ijaγur-tan-u ¹⁵⁰ inay čim-a-da ¹⁵¹ бүкүй-дүр ¹⁵² esi-dür ¹⁵³ ayui yeke

[91] iĵayur-danu¹⁵⁴ köbegüd iĵayur-danu¹⁵⁵ ökid kedber uĉaraĵu
 名門の生まれの 男子 、 名門の生まれの 女子が もしも 出会って

kündü ebeĉin-e¹⁵⁶ egeregdeĵü : tere ebeĉin-eĉe¹⁵⁷ tonilsuyai kemen küsebesü :
 重 病 に かかって 、 その 病 から 脱しよう と 望むなら、

nigen ariyun ger-tür küĵi tülejü ene nom biĉig-tür takil takiĵu
 一つの 清浄な 部屋に 香を 焚いてこの 経書に 供物を 捧げて、

ene¹⁵⁸ nom-i ungsiyulbasu : ebeĉin¹⁵⁹ ĉar¹⁶⁰ inu bügüde¹⁶¹ anayu :
 この 経を 読ませれば、 病気は 全て 治る。

[92] kedber¹⁶² boydas-un¹⁶³ köbegüd boydas-un¹⁶⁴ ökid : mör ĵarĉu
 もしも 聖者の 男子、 聖者の 女子が 道に出て

qola odĉu : qudal-tu asiĵ kijü ed tavar olĵu küsel-iyen qansuyai :
 遠くに行き、 商売 をして 物品を得て 望みを 満たそう、

aĉi ür-e-yin tusa-yi ayuda delgere-gülsügei kemen küsebesü
 恩恵と利益の 結果を 大いに 広めよう と 願うなら、

ene nom biĉig-i bisirel sedkil-iyer kündülen takibasü : küsegsen
 この 経書を 信仰心を持って 敬い 供養すれば、 願った

küsel durabar anu¹⁶⁵ qanuyu : **[93]** ĵadaĵsi yabuqui-tür¹⁶⁶ ba :
 望みは 思い通り ←その になう。 外に 行くとき と

dotoĵsi oroqui-tür aĵui yeke bayasqulang-tu boluyu :
 中に入るときに 非常に 大きな 喜びを持つ ことになる。

[94] basa kedber iĵayur-danu¹⁶⁷ köbegüd iĵayur-danu¹⁶⁸ ökid
 また、もしも 名門の生まれの 男子、 名門の生まれの 女子が

¹⁵⁴ iĵayur-tan-u ¹⁵⁵ iĵayur-tan-u ¹⁵⁶ ebedĉin-e ¹⁵⁷ ebedĉin-eĉe ¹⁵⁸ ene ¹⁵⁹ ebedĉin ¹⁶⁰ ĉu ¹⁶¹ büged ¹⁶² ked ber ¹⁶³ iĵayur-tan-u ¹⁶⁴ iĵayur-tan-u ¹⁶⁵ inu ¹⁶⁶ yabuqui-dur ¹⁶⁷ iĵayur-tan-u ¹⁶⁸ iĵayur-tan-u

tariyan ĵimis tariĵu ūr-e ese olbasu aduĵusun mal-tur¹⁶⁹ ūkŭl
農作物・果物を植えて実りを得なければ、家畜に死の

ada bolbasu : tendeĉe ariĵun ger-tŭr kŭĵi tŭleĵŭ ene nom
災いが生ずれば、それより清浄な部屋に香を焚いてこの経

erdeni-tŭr¹⁷⁰ takibasus : tariyan toĵosun sayin bolĵu : adal mal :
宝に供養すれば、農作物・土壌は良くなって、家畜

anu sayitur ōsŭyŭ [95] nŏgŏge-de basa ada todqar boluy¹⁷¹ :
はよく育つ。さらにまた、魔障が【無く】なる。

[96] iĵaĵur-danu¹⁷² kŏbegŭd iĵaĵur-danu¹⁷³ ōkid kedber¹⁷⁴ (175)ĵarudasun
名門の生まれの男子、名門の生まれの女子がもしも懐胎

bolĵu¹⁷⁵) : ada-tur¹⁷⁶ saran-tur¹⁷⁷ uĉirabasu : nom¹⁷⁸ biĉig-i bisirel sedkil-iyer
して、災い持つ月に遭うならば、経書を信仰心を持って

ĵegŭdŭlebesŭ¹⁷⁹ takibasus tendeĉe¹⁸⁰ tonilĵu esen tŭgel boluy¹⁸¹ :
携えさせれば、供養すれば、それより脱して健康になる。

[97] tŏrŏgsen kŏbegŭn ōkin inu ūlĵei-tŭ qutuĵ-tu boluĵad urtu
産まれた男児・女児は福寿を持つことになり、長

nasutu boluy¹⁸² : [98] basa ked ber iĵaĵur-danu¹⁸¹ kŏbegŭd
命となる。また、誰でも名門の生まれの男子、

iĵaĵur-danu¹⁸² ōkid : tŏrŏgsen kŭmŭn ele bŭgŭde-yi doloĵan ebŭged
名門の生まれの女子、生まれた人全てを7人の老人

neretŭ odun eĵelen¹⁸³ ūiledŭyŭ¹⁸⁴ : [99] keĵiy-e amin inu ese¹⁸⁵
という名の星が支配する。いつか命が安寧に

¹⁶⁹ mal-dur ¹⁷⁰ erdeni-dŭr ¹⁷¹ ūlŭ boluy¹⁷² iĵaĵur-tan-u ¹⁷³ iĵaĵur-tan-u ¹⁷⁴ ked ber ¹⁷⁵ umai-dur
uruy bolbasu ¹⁷⁶ ada-tu ¹⁷⁷ sara-dur ¹⁷⁸ ene nom ¹⁷⁹ kŭndŭlegesŭ ¹⁸⁰ ada-aĉa ¹⁸¹ iĵaĵur-tan-u ¹⁸²
iĵaĵur-tan-u ¹⁸³ eĵilen ¹⁸⁴ sakiĵu boluy¹⁸⁵ esen

nayatala¹⁸⁶ nigen [ja]yayan-tur¹⁸⁷ : kedüi be ada todqar kiged : öd¹⁸⁸ ügei temečel
満ちるまで、一生におけるいかなる魔障と無益な戦い

üge dayun kiged : tedeger terigüten jayun toyatan : mayui iru-a belges
口論などこれらをはじめとする百種類の凶兆

bügüde-yi doloγan ebüged neretü odun eγelen¹⁸⁹ sakiqu boluyu ∴
全てを7人の老人という名の星が支配し守るのである

kemen medeγü uqayad ene¹⁹⁰ nom-i bisirel sedkil-iyer kündülebesü¹⁹¹ :
と悟って、この経を信仰心も持って敬えば、

qamuγ ada todqar qoor kürgen ülü čidayu kemen nomlaba :
一切の魔障は害毒を至らせることができない」と説かれた。

[100] tendeče jalayu Mañusiri¹⁹² terigüten : quraysad dörben jüil
それより童子文殊師利をはじめとする集った四種の

nököd-de¹⁹³ ene¹⁹⁴ nom-un jarliγ¹⁹⁵ kündüleγü toytaγaju
弟子たちにおいては、この経の教えを尊び記憶して、

tabun čoy-čas-iyar böküjü mörgüged ačirabai¹⁹⁶ ∴
五体で屈ませて礼拝し、解散した。

[101] ¹⁹⁷namo ratn-a čira čidi maq-a diča čar-a avabar-a ay-a suvaq-a¹⁹⁷) ∴

[102] tngri-yin tngri burqan-u¹⁹⁸ nomlaysan doloγan ebügen
天神の天神たる仏のお説きになった7人の老人

neretü odun-iyar nasun urtu bolγaqui neretü sudur nom bičig ∴
という名を持つ星によって寿命を長くするという経書、

¹⁸⁶ qanatala ¹⁸⁷ jayayan-dur ¹⁸⁸ öd ¹⁸⁹ eγilen ¹⁹⁰ ene ¹⁹¹ kündülebesü takibasü ¹⁹² Mañusiri ¹⁹³ nököd
¹⁹⁴ ene ¹⁹⁵ jarliγ-i ¹⁹⁶ ačarabai ¹⁹⁷ namo ratn-a cir-a čidi ma ha-a dica car-a avabar-a ay-a süva-ha-
a ¹⁹⁸ burqan

nigen jüil tegüsbe ∴ :

一 卷、終わった。

[E]

[103] altan qutuγ-tu kümün čayan bey-e-tü [104] modun qutuγ-tu
金の気を持つ人は白い身体を持つ。木の気を持つ

kümün qar-a bey-e¹⁹⁹ : [105] (omitted)²⁰⁰ [106] γal qutuγ-tu kümün
人は黒い身体。火の気を持つ人は

ulaγan bey-e²⁰¹ : [107] sirui qutuγ-tu kümün sira²⁰² bey-e²⁰³
赤い身体。土の気を持つ人は黄色い身体。

[F]

[108] doloγan ebügen neretü odun-tur²⁰⁴ qutuγ γuyuqu maytaγal
7人の老人という名を持つ星に瑞祥を請う讚歌は

ede buyu : [109] nigen²⁰⁵ eke-teče²⁰⁶ deger-e : naiman tümen ber-e
これである。ひとつの母神より上方、八万由旬の

ündür ayula-yin²⁰⁷ orgil-tur²⁰⁸ sayuri-tu buyu²⁰⁹ : [110] dörben dvib
高さの【須弥】山の頂きに居場所を持つのである。四州

yirtinčü deger-e yeke erketü buyu či : [111] tngri minu
界上に大きな力を持つのである、汝は。我が天神よ、

dörben töröl tabun jāyayad-un amitan-u yeke²¹⁰ ibegen qasiyan
四生五道の衆生の大きいなる庇護・拠り所

buyu²¹¹ či : [112] tngri-ün qaγan Qurmusta tngri-yin
となるものである、汝は。天神たちの王帝釈天の

¹⁹⁹ bey-e-tü ²⁰⁰ usun qutuγ-tu kümün qar-a bey-e-tü ²⁰¹ bey-e-tü ²⁰² sir-a ²⁰³ bey-e-tü ²⁰⁴ odun-dur ²⁰⁵ etügen ²⁰⁶ eke-deče ²⁰⁷ Simir ayula-yin ²⁰⁸ orgil-dur ²⁰⁹ buyu či ²¹⁰ omitted ²¹¹ boluγči buyu

titim-i keligsen²¹² erike metü buyu či **[113]** naran saran
冠を 繫いだ 数珠 の よう である、汝は。 日 月

terigüten doloğan gray-ud²¹³ ba qorin naiman nagsidar²¹⁴ kiged :
をはじめとする 七 曜 と 二十 八 宿 及び、

γučin tümen külti toγatan²¹⁵ odud-iyar takiγuluγči²¹⁶ buyu či :
三十 万 俱胝の 数 の 星々によって 供養させる者 である、汝は。

[114] tngri minu ene jayayan-tur²¹⁷ küseksen küsel bütügegči
我が天神よ、現 世において 願った 望みを 実現させる者

buyu či : **[115]** tegüber ali ba küseksen küsel yambar ele
である、汝は。 このようにして、一切 の 願った 望みを 何であれ

sedkigsen-ü yosuyar sedkil-i minu qangyan soyurq-a ∴
願った とおりに 思いを←我が 満たし たまえ。

[116] tngri minu a jayun anggi ada tođqar-i amurliγul-un usadqaqui buyu
我が天神よ、百 種類の 魔 障 を 鎮 静 させる のである、

či ∴ (86r.) **[117]** urtu nasun-i delgeregülügci buyu či
汝は。 長 寿 を 広める者 である、汝は。

[118] ali ba sayin üges-i²¹⁸ bütügen soyurq-a ∴
一切 の 善き 言葉を 実現し たまえ。

[G]

[119] doloğan ebügen neretü odun-tur²¹⁹ jula sitayaqu üdür-i²²⁰
7人 の 老人 という名を持つ 星 に 燈明を 点す 日 を

²¹² kiligsen ²¹³ γray-ud ²¹⁴ nagšadar ²¹⁵ toγ-a-tan ²¹⁶ takiγuluγsan ²¹⁷ jayayan-dur ²¹⁸ üiles-i ²¹⁹ odun-dur ²²⁰ edür-i

ügülesügei : **[120]** qubi²²¹ sarayin²²² doloγan sinede²²³ : **[121]** qoyar²²⁴ sarayin²²⁵
 述べよう。 正 月 の 初旬の七日に。 二 月 の

dörben sinede²²⁶ : **[122]** γurban²²⁷ sarayin²²⁸ qoyar sinede : **[123]** dörben²²⁹
 初旬の四日に。 三 月 の 初旬の二日に。 四

sarayin²³⁰ arban²³¹ doloγan-a **[124]** tabun²³² sarayin²³³ tabun sinede
 月 の 十 七日に。 五 月 の 初旬の五日に。

[125] jiryuyan²³⁴ sarayin²³⁵ qorin γurban-a **[126]** doloγan²³⁶ sarayin²³⁷ qorin-a
 六 月 の 二十三日に。 七 月 の 二十日に。

[127] ⁽²³⁸⁾naiman sara-yin qorin-a⁽²³⁸⁾ : naiman²³⁹ sarayin²⁴⁰ arban doloγan-a
 八 月 の 二十日に、 八 月 の 十 七日に。

[128] yisün²⁴¹ sarayin²⁴² qorin-a : **[129]** arban²⁴³ sarayin²⁴⁴ arban nigen-e :
 九 月 の 二十日に。 十 月 の 十 一日に。

[130] ⁽²⁴⁵⁾arban nigen⁽²⁴⁵⁾ sarayin²⁴⁶ arban tabun-a : **[131]** ⁽²⁴⁷⁾arban_、 qoyar⁽²⁴⁷⁾
 十 一 月 の 十 五日に。 _、十_、 二

sarayin²⁴⁸ naiman sinede : jula sitayan takiydaqu :
 月 の 初旬の八日に 燈明を 点して 供養すべきである。

[132] doloγan ebügen ner-e-tü odun-u sudur tegüsbe ∴∴∴
 7 人 の 老人 という名を持つ 星 の 経 、 終わった 。

²²¹ qabur-un terigün ²²² sar-a-yin ²²³ sin-e-de ²²⁴ qabur-un dumdadu ²²⁵ sar-a-yin ²²⁶ sin-e-de ²²⁷ qabur-un ečüs ²²⁸ sar-a-yin ²²⁹ jun-u terigün ²³⁰ sar-a-yin ²³¹ qorin ²³² jun-u dumdadu ²³³ sar-a-yin ²³⁴ jun-u ečüs ²³⁵ sar-a-yin ²³⁶ namur-un terigün ²³⁷ sar-a-yin ²³⁸ omitted ²³⁹ namur-un dumdadu ²⁴⁰ sar-a-yin ²⁴¹ namur-un ečüs ²⁴² sar-a-yin ²⁴³ ebül-ün terigün ²⁴⁴ sar-a-yin ²⁴⁵ ebül-ün dumdadu ²⁴⁶ sar-a-yin ²⁴⁷ ebül-ün ečüs ²⁴⁸ sar-a-yin

Colophons

[H1]

[A1] tuɣuluɣsan burqan baɣsi-yin nomlaɣsan

困難を克服した 仏 師 の お説きになった

doloɣan ebügen neretü odun-u sudur egüni

『7人の老人という名を持つ星の経』、これを

dulduyidqu sedkil²⁴⁹ duraduɣad²⁵⁰ ken takibası :

抛り所とする 心 で 祈り願ひ、誰か²⁵⁰が 供養しても、

tusa ači inu tegün-tür²⁵¹ bolumui kemen sayitur medeged

利益←その 心²⁵¹が その者に 生ずると 良く 知って、

[A2] Aribuq-a²⁵² neretü yeke süsüg-tü²⁵³ :

アリブカ という名を持つ大きな信心を持つ者は

aburida üçügen büküi-eče ene nom-tur²⁵⁴ :

常に 幼少 であるときから この経に対して、

ariɣun bisirel sedkil-iyer ürgülji ungsıju takiyad :

浄き 信仰 心を持って 絶えず 読経・供養し、

asuru öber-ün qutuɣ-i eriǰü ĵalbarıysan-tur²⁵⁵ :

大いに 自己の 至福を 求めて 祈った ところ、

[A3] ⁽²⁵⁶⁾tülete aburayçı⁽²⁵⁶⁾ buyantu eǰen :

常に 救済する 徳を持つ 主 (であり、)

tonılɣan üiledügči²⁵⁷ burqan baɣsi-yin qubilɣan :

解脱 させる者である 仏 師 の 化身 たる

²⁴⁹ sedkil-iyer ²⁵⁰ duradduɣad ²⁵¹ tegün-dür ²⁵² Ürüg böke ²⁵³ sikür-tü ²⁵⁴ nom-dur ²⁵⁵ ĵalbarıysan-u tulada ²⁵⁶ ĵokılduqu yabudal-un ²⁵⁷ üiledügči

Toγayan²⁵⁸ temür²⁵⁹ qaγan öni urtu nasulayad :

トガン= テムル ・ カーンは 久しく 生き 、

toγan-ača yeke taγan bolqui-yi²⁶⁰ küsegçi²⁶¹ ∴

数(ある者)より 大いなる カーン になることを 望む者(であり)

【A4】 ariγun uqay-a-tu bodisung²⁶² ejen tere büged :

「浄き 知恵を持つ 菩薩 主」たる 彼 は 、

arγ-a bilig-i surču Sečen qaγan-u oron-tur²⁶³ sayubai :

方便 ・ 知恵を 学び 、 セチェン・カーンの 王座に 就いた 。

ali ba küsegsen anu öber-ün sedkil-tür²⁶⁴ bütügsen-iyer

一切の 望んだことが 自己の 心に かなったので、

adqay sejeg²⁶⁵ ügei ene nom-tur²⁶⁶

疑い なくこの 經に 、

【A5】 uyiγur üsüg-iyer bisirel törögülügçi : ene nom sudur-i

ウイグル 文字で 信仰を 生み出している この 經典を

urida busud orčiγuluγsan ügei bügetele

かつて 他人は 翻訳し なかった のであるが 、

olan mongγol irgen bisirel-iyer takituγai : kemen

多くのモンゴルの 民々が 信仰をもって 供養せよ とて 、

oor mongγol-un kelen-iyer orčiγulbai bi ∴

ホル・モンゴルの 言葉で 翻訳した、我は 。

【A6】 tegüber yambar ele öber-ün sedkil bütügsen-iyer

これによって 何であれ 自己の 想いが 実現したことにより 、

²⁵⁸ Toγan ²⁵⁹ temür-ün ²⁶⁰ bolqu-yi ²⁶¹ küsejü ²⁶² bodhi-satuva ²⁶³ oron-dur ²⁶⁴ sedkil-dür ²⁶⁵ sesig
²⁶⁶ nom-dur

tedeger kemen mingyan toγatan²⁶⁷ : amitan-u küsel bügüde :
これら【を】とて 千 を数える 衆生の 望み 全て を

tegünčilen küseksen-iyer²⁶⁸ qangqu boltuγai kemen
かくのごとく 望んだとおりに 満たす ように と言って、

tegüsken mingyan toγatan²⁶⁹ tamla'γulju²⁷⁰ olan-a tügegülbei :
実行させ、 千 回 印刻せしめて 人々に 広めた 。

【A7】 ene sayin buyan-u ači ür-e-yin küčüber
この 良き 徳 の 果報 の 力により、

ejen qayan qatun altan uruy-iyar
主たる カーン・カトン は 黄金 の 氏族とともに

erüsčü möngke jirγayad buyan-nuγud delgerejü
獲得し、永遠に 享樂し、 徳 は 広まって、

ečüs-tür burqan-u qutuγ-i olqu boltuγai
ついに 仏陀 の 至福 を 得る ように 。

【A8】 el ulus-un kimuralduqu dayisun amurliyad :
国 の 争い合う 敵 は 鎮まり、

ada tođqar ügei engke amuju :
魔 障 なく 平安に 定まり、

eldeb qur-a²⁷¹ čay-tur oroju jüd dorγan ügei boluγad :
種々の 雨 は 時になつて 降り、 災 害 は 無くなつて、

ele kelelegseger sedkigseger kereg anu bütütügei :
全て 言うがままに 思うがままに 物事 が 成就する ように 。

²⁶⁷ toγ-a-tan ²⁶⁸ küseksen küsel-iyer ²⁶⁹ toγ-a-tan ²⁷⁰ tamayalayulju ²⁷¹ kei qur-a

[A9] aburida bi kiged ečige eke uruy köbegüid terigüten :
常に 我 と 父 母 ・ 親 戚 ・ 子 息 を は じ め と し 、

amidu aysan aq-a degüü olan amitan ber :
生 ありし 兄 弟 ・ 多 くの 衆 生 さ え も

asuru ene yirtinčü-tür²⁷² küseksen anu nom-iyar qanuyad
大いなる この 世 で 望んだことが 經によって 満たされ、

amurliysan Sükavati-yin²⁷³ ulus-tur²⁷⁴ kürkü boltuyai ∴
平安なる 極 楽 の 国 に 至 る ように 。

[A10] te-ali²⁷⁵ terigün od-i²⁷⁶ luu²⁷⁷ jil-ün arban sarayin²⁷⁸ nigen sinede²⁷⁹
天 曆 元 年 タ ッ 年 の 十 月 の 朔 日 に

qabtasun-tür²⁸⁰ tamay-a čuyulyabai :
板 に 印 刻 した 。

[H2]

[B1] ene nom-i enedkeg-ün oron-ača enedkeg-ün nigen bandida²⁸¹ kiged :
この 經を イ ン ド の 地 より イ ン ド の 一 僧 侶 及 び

erdem-tü Tag-san-cang²⁸² ačiraju kitad-un oron-tür²⁸³ orčiyulbai ∴
学 識 持 つ 唐 三 藏 が 持 っ て 来 て、 中 国 の 地 に 訳 出 した 。

[B2] erkin yosud-un oron-tür²⁸⁴ delgerenggüi-e orosiysan-tür²⁸⁵ yeke qayan-u
尊 き 礼 の 地 に 行 き 渡 っ て いた と ころ、 大 カ ー ン の

noyad tüsimed bodisung²⁸⁶ ijayur-dan²⁸⁷ töröged süsülküi bisireküi
臣 下 たち、 官 僚 たち、 菩 薩 族 が 産 ま れ、 信 仰 。

²⁷² yirtinčü-dür ²⁷³ Sükavati-yin ²⁷⁴ oron-dur ²⁷⁵ Teng li ²⁷⁶ on-u ²⁷⁷ luu-yin ²⁷⁸ sar-a-yin ²⁷⁹ sin-e-de
²⁸⁰ qabtasun-dur ²⁸¹ bañdıça ²⁸² Tang san cang ²⁸³ oron-dur ²⁸⁴ oron-dur ²⁸⁵ orosiysan-dur ²⁸⁶ bodhi-
satuva ²⁸⁷ ijayur-tan

bilig kiged samadi diyan-tur²⁸⁸ tegülder bolbai : 【B3】⁽²⁸⁹⁾gem irsi günglü tai
英知 及び 三昧・禪那に 満ちた。 金紫光祿大

quu²⁸⁹ siri²⁹⁰ tai quu Aribuq-a²⁹¹ duradqa-γsan-tur²⁹² : oyin²⁹³ uyiγur-un šajin-u
夫・御史大夫 アリブカ が 申し出たところ、 ウイグルの 教

ežen Bradir-a²⁹⁴ siri mongγol-un kelen kiged : üsüg-iyer orčiγulju
主 プラジニヤシリ が モンゴルの 言葉 及び 文字で 翻訳し、

qoyar mingyan toγ-a-dan²⁹⁵ tamaγalaγulbai : 【B4】 Alin di murdi situ
二 千 回 押印せしめた。 アリンテムル大 司徒 が

uyiyurun²⁹⁶ kelen²⁹⁷ orčiγulju : nigen mingyan toγatan²⁹⁸ qabtasun-tur²⁹⁹
ウイグルの 言葉 に 翻訳し、 一 千 回 板 に

tamaγ-a čiyuluγsan-i³⁰⁰ nom-un öglige bolγan tügegülbei :
印刻したの を 法 施 となして 頒布した。

【B5】 oor mongγol kiged : uyiγur-tur delgeregülin üiledüged³⁰¹ : tai quu
ホル・モンゴル と ウイグルに 広め 為して、 太后は

öber-iyen ber urida³⁰² mongγol-un nom-un törö-yi bariγsan-tur³⁰³ : ene
自身 も 以前は モンゴルの 法 の 決まりを 奉じていたが、 この

nom-un adisdid-iyar burqan-u nom-tur³⁰⁴ oroγad maγad γarču egünü³⁰⁵
経 の 加持によって 仏 法 に 入り 出家して、 その

erdem-üd-ün bisilyal-i tegsi amsabai : 【B6】 qoyina ding³⁰⁶ üker jil-tür³⁰⁷
功德 の 瞑想 を 等しく 享受した。 後に 丁・ウシ 年に

²⁸⁸ diyan-dur ²⁸⁹ gin ši güng lu tai puu ²⁹⁰ giui siin ²⁹¹ Үрүг бөке ²⁹² duradqaysan-dur ²⁹³ omitted
²⁹⁴ Br-a dir-a ²⁹⁵ toγa-tan ²⁹⁶ yu-gur-un ²⁹⁷ kelen-e ²⁹⁸ toγ-a-tan ²⁹⁹ qabtasun-dur ³⁰⁰ čoyuluγsan-i
³⁰¹ üiledüged ³⁰² urida ³⁰³ bariγsan-dur ³⁰⁴ nom-dur ³⁰⁵ egün-ü ³⁰⁶ deng ³⁰⁷ jil-dür

Maq-a³⁰⁸ bala kelemeči³⁰⁹ kiged Siri ananda ⁽³¹⁰⁾basir-a : sa³¹⁰
 マハー バラ 翻訳師 と シリアナンダ バヅイラ が

Güng tang-un süm-e-tür³¹¹ : töbed-ün kelen kiged töbed üsüg-iyer
 ゲンタンの 僧院 で チベットの言葉 と チベット文字で

orosiγulju³¹² orosiγulbai ∴∴∴
 翻訳し 、 入蔵せしめた 。

³⁰⁸ Mati ³⁰⁹ kelemürči ³¹⁰ bajir-sa ³¹¹ süme-dür ³¹² orčiγulju

語注

[1]~[3] namo buddhay-a-y-a ∴ ∴ ∴ namo dharma-y-a-y-a ∴ ∴ ∴ namo sangghay-a-y-a ∴ ∴ ∴ サンスクリット語のいわゆる「三帰依文」の音写。ウイグル仏典とモンゴル仏典の巻首に典型的に見られる。一方、本經典の漢文とチベット語テキストには対応部分が存在しない。総じて、17世紀以降に成立したモンゴル仏典のうち、仏説部に含まれるものの多くは巻首にこの三帰依文をもつ。一方、その翻訳元と目されるチベット仏典は通常この定型をもたず、いきなり「サンスクリット語で…、チベット語で…」と、経題が示される。ウイグル仏典とモンゴル仏典が巻首にこの三帰依文をもち、チベット仏典はもたないことより、仏典巻首の三帰依文形式はウイグルよりモンゴルに導入されたと見なすことができる。しかし、ウイグルとモンゴルが直接接触していた13~14世紀に成立したモンゴル仏典のうち、巻首が完備し、三帰依文をもつものは残念ながら伝存していないため、この問題に直接答えを出すことはできない。ただし、トゥルファン出土のモンゴル語仏教文献の中に一点のみ三帰依文を含んだ写本断片が存在する。それは、大谷探検隊が将来したもので、ウイグル語とモンゴル語が並記された、写経のための下書きである〔香川黙識（編）1915、図版(6)-(3); Murayama 1958; 羽田・山田 1961, p. 198, No. 8126, pp. 205-206; Ligeti 1972, pp. 170-171〕。そこにはモンゴル語部分にウイグル文字で *namo buday-a*, *namo darmay-a*, *namo sanggay-a* と書かれている。写本がトゥルファン地区のトウユクタ（吐峪溝）出土であること、ウイグル語とモンゴル語が並記されていることより、13~14世紀の成立と見て間違いない。この資料を以て、三帰依文がウイグル経由でモンゴルに伝播していた証とすることができよう。

[4] Kitad 「中国」。*< Kitan* 「契丹」の複数形 [Pelliot 1959-1973, p. 220]。MP: *Nanggiyad*. *< *Nanggiya* 「南家」 [Pelliot 1913, pp. 460-466] の複数形。13~14世紀のモンゴル支配時代において、モンゴル人から見て *Kitad* は北中国の中国人、**Nanggiya* は南中国の中国人一般を指していた。この違いは、15世紀以降のモンゴル人のあいだでは次第に失われていった模様で、18世紀前半に編纂された満洲語・モンゴル語対訳語彙集『満蒙清文鑑』によると、*Kitad: irgen-i kitad kememüi : basa nanggiyad kememüi* : 「キタド：【在地の】人々をキタドという。またナンギヤドともいう」とある。『満蒙清文鑑』の流れを汲む『五體清文鑑』も同様である。

成立年代のより新しいMP（北京版モンゴル・カンジュル）において *Kitad* の代わりに *Nanggiyad* が使われている理由は、その成立時（1717-20年）にチベット語の *rgya nag* と *rgya* の訳し分けを目的として、ある程度組織的な編纂が行なわれたためと思われる。一例として、北京版モンゴル・カンジュルには、漢文仏典を翻訳原典とする經典が合計4部含まれており、リゲティの分類番号で示すと、『金光明最勝王經』（No. 176）、『大方便佛報恩經序品第一』（No. 1117）、『佛說北斗七星延命經』（No. 1123）、『罪報因果經』（No. 1098）である [Ligeti 1942-44; 1987, p. 427] が、このうち No. 1098, No. 1117 の2点は「中国の言葉で…」の「中国」のところに *Nanggiyad* が使われており、対応するTP（北京版チベット・カンジュル；Otani No. 1004, 1022）ではチベット語 *rgya* がある。中でも No. 1098 の跋文では *Kitad* と *Nanggiyad* がそれぞれチベット版の *rgya nag* と *rgya* に対応するかたちで使い分けられている。つまり、チベット語の *rgya* をモンゴル語で *Nanggiyad* と訳し、*rgya nag* は *Kitad* と訳し分けるといふ原理が働いているかにみえる。しかしながら、逆に、本經典（No. 1123）の場

合はチベット版の *rgya nag* にモンゴル語版 (MP) の *Nanggiyad* が対応しており、No. 176 ではチベット版の *rgya* にモンゴル語版の *Kitad* が対応しているため、即断はできない。

[5] *doloγan ebügen* 「七人の老人」。漢語「北斗七星」に対応するモンゴル語の表現。モンゴル人は古くから北斗七星を *doloγan ebügen* 「七人の老人」と呼んできた。史料としては元の至元年間 (1264-1294) の成立と目される漢語・モンゴル語対訳語彙集『蒙古譯語』(いわゆる『至元譯語』) に「七星・朶朶阿不干」と見えるのが最も古い。その後、この単語は明代に編纂された対訳語彙集には見られないが、清代乾隆年間末期に成立した、満洲語を軸としたモンゴル語・チベット語・チャガタイトルコ語・漢語の対訳語彙集『五體清文鑑』に登録されている。

[6] *smebdun sis byab-a yi skarm-a yi amdo* 「7つの痣という星の経」。チベット語の *sme bdun zhes bya ba skar ma'i mdo* を転写したもの。チベット語の *sme bdun* 「7つの痣」は北斗七星を表わすが、原義は詳らかでない。パンルン氏によると、チベットの民間ではこの星は *byang skar spun bdun* 「北方の七人の星兄弟」と呼ばれる [Panglung 1991, p. 400, n. 5]。

[8] *Manjusiri* 「文殊【師利】」。MP: *Mañjuśrī* < Skt. *Mañjuśrī*。MP はガリク文字でサンスクリット形をそのまま転写するが、本テキストでは14世紀以来の伝統的なモンゴル形 *Manjusiri* が使われている。*bodisung* 「菩薩」。MP: *bôdhi-saduva* < Skt. *bodhisattva*。 *bodisung* は、13~14世紀にモンゴル語に導入されたソグド・ウイグル形 *bodistv* (PWDYSTβ) を、17世紀以降のモンゴル人が PWDYSWNK と「誤読」したものの。一方、MP: *bôdhi-saduva* は、チベット仏典におけるサンスクリットの音写形 *bodhi saduva* をそのままガリク文字で翻字したと思われる。

[9] *tamlang* 「貪狼」の音写。cf. TP: *tam lang*。MP: *tan-lang* は、18世紀前半の中国北方漢語音 (近世音) を反映したものか。

[10] *sakiyan bui* see [16] *sakiyan buu*。

[12] *mongyol amun* 「モンゴル穀物 (=黍)」。13世紀に編纂された漢語・モンゴル語対訳語彙集『至元譯語』五穀門に「床黍・蒙兀刺阿木」とある [長田1953; Ligeti 1990, p. 262; Kara 1990, p. 291]。cf. TP: *grus ma sbom po* 「粗い脱穀物」。

[15] *ku-m'in* 「巨門」の音写。 *m'in* (M'YN) の綴り字の余分な *alef* (') については、先古典期に特徴的なウイグル字 *mem* (中心軸の左側に *alef* 二つがあるかに見える) を *mem + alef* と書写した可能性がある。もしそうであるならば、本写本の写し手は、より古いウイグル文字の写本を参照していた可能性が生じる。cf. TP: *ku men*, MP: *keuu men*。

[16] *sakiyan buu* 「護符」。[10], [13] の *sakiyan bui* は書き誤り。モンゴル語 *sakiyan* 「護るもの」と漢語 *buu* 「符」からなる。MP: *sakiyan cakr-a* < TP: *srung pa'i 'khor lo* 「護輪」。MP は TP から逐語翻訳された可能性があり、その際、チベット語の *'khor lo* に対してサンスクリット語 *cakr-a* 「輪」を対応させた。

[18] *qonuy amun* 「粟穀物」。TP: *grus ma phra mo* 「細かい脱穀物」。14世紀後半に編纂されたモンゴル語・漢語対訳語彙集『華夷訳語』花木門に「[⦿]豁諾_⦿・粟」とある。

[21] *luus-un* 「祿存」の音写。 *luus-un* (LWWZ-WN) と、 *s* が *zain* 文字の中絶形で書かれている。cf. TP: *lu sun*, MP: *lu-čun*。

[24] *tutory-a* 「米」。『至元譯語』五穀門に「粳米・禿禿兒[⦿]罕」とある [長田1953; Ligeti 1990, p. 267; Kara 1990, p. 330]。cf. TP: *'bras* 「米」。

[27] *ün-kü* 「文曲」の音写。

参照文献

- Chandra, L. (ed.) 1973-79. *Mongolian kanjur. from the collection of Raghuvira.* vol. 1-108, New Delhi. (Śatapiṭaka series)
- Franke, H. 1990. "The Taoist Elements in the Buddhist *Great Bear Sūtra (Pei-tou ching)*." *Asia Major* 3rd series 3-1, pp.75-111.
- 羽田明・山田信夫 1961. 「大谷探検隊将来ウイグル字資料目録」『西域文化研究』第四、中央アジア古代語文献、京都、pp. 172-206.
- Heissig, W. 1962. *Beiträge zur Übersetzungsgeschichte des mongolischen buddhistischen Kanons.* (Abhandlungen der Akademie der Wissenschaften in Göttingen Philologisch-Historische Klasse, Dritte Folge, Nr. 50.) Göttingen.
- Heissig, W. 1973. "Zur Organisation der Kandjur-Übersetzung unter Ligdan Khan (1628-1629)." *Zentralasiatische Studien* 7, pp. 477-501.
- 香川黙識 (編) 1915. 『西域考古圖譜』東京。
- 金岡秀郎 1989. 「6. 仏教の歴史的展開・モンゴル」『仏教文化事典』東京、pp. 310-318.
- Kara, Dzh. 1981. "Ujguro-mongol'skie literaturnye svyazi." *Literaturnye svyazi mongolii.* Moskva, pp. 51-62.
- Kara, G. 1990. "Zhiyuan yiyu. Index alphabetique mots mongols." *Acta Orientalia Hungarica* 44, pp. 279-344.
- Kas'yanenko, Z. K. 1993. *Katalog peterburgskogo rukonisnogo «Ganzhura».* Moskva.
- 高山寺典籍文書総合調査団 (編) 1973. 『高山寺経藏典籍文書目録』第一 (高山寺資料叢書第三冊, 東京)
- Laufer, B. 1907. "Zur buddhistischen Literatur der Uiguren." *T'oung Pao* Série 2, Vol. 8, pp.391-409.
- Lévi, S. 1908. "L'original chinois du sūtra tibétain sur la grande-ourse." *T'oung Pao* Série 2, Vol. 9, pp. 453-454.
- Ligeti, L. 1930a. "Les noms mongols de Wen-tsong des Yuan." *T'oung Pao* Vol. 27, pp. 57-60.
- Ligeti, L. 1930b. "La colleciton mongole Schilling von Canstadt à la bibliothèque

- de l'Institut." *T'oung Pao* Vol. 27, pp. 119-178.
- Ligeti, L. 1934. "Les pérégrinations de Csoma de Kőrös et le pays des Yugar." *Revue des Etudes Hongroises* 12, Paris, pp. 233-253.
- Ligeti, L. 1942-44. *Catalogue du Kanjur mongol imprimé: I. Catalogue.* (Bibliotheca Orientalis Hungarica 3) Budapest.
- Ligeti, L. 1954. "Notes sur le colophon de ((Yitilän Sudur))." *Asiatica. Festschrift Friedrich Weller.* Leipzig, pp. 397-404.
- Ligeti, L. 1967. "Doloγan ebügen neretü odun-u sudur." In: Ligeti, L. (ed.), *Preklasszikus Emlékek 3* (Mongol Nyelvelmléktár 5), Budapest, pp. 103-114.
- Ligeti, L. 1972. *Monuments préclassiques I. XIII et XIV^e siècles.* (Monumenta Linguae Mongolicae Collecta II), Budapest.
- Ligeti, L. 1987. "Répertoire du kanjur mongol imprimé." *Acta Orientalia Hungarica* 41:3, pp. 341-497.
- Ligeti, L. 1990. "Un vocabulaire sino-mongol des Yuan. Le *Tche-yuan yi-yu.*" *Acta Orientalia Hungarica* 44, pp. 259-277, + 19 pls.
- Murayama, S. 1958/59. "Zwei mongolische Manuskripte aus Ost-Turkestan." *Central Asiatic Journal* 4, pp. 279-288, -2 pls.
- 長田夏樹 1953. 「元代の中・蒙対訳語彙「至元譯語」」『神戸外大論叢』（神戸市外国語大学研究所）4: 2-3, pp. 91-118.
- Panglung, Jampa, L. 1991. "Die tibetische Version des Siebengestirn-Sūtras." In: E. Steinkellner (ed.), *Tibetan History and Language. Studies dedicated to Uray Géza on his 70th Birthday.* Wien, pp. 399-416.
- Pelliot, P. 1913. "Sur quelques mots d'Asia Centrale attestés dans les textes chinois." *Journal Asiatique* 1913 mar.-avr., pp. 451-469.
- Pelliot, P. 1959-1973. *Notes on Marco Polo.* I-III. (Ouvrage posthume) Paris.
- Rachmati, G.R. 1937. *Türkische Turfan-Texte.* VII. Abhandlungen der Preußischen Akademie der Wissenschaften 1936, Berlin.
- 庄垣内正弘 1990. 「モンゴル語仏典中のウイグル語仏教用語について」『アジアの諸言語と一般言語学』東京、pp. 157-174.
- 鈴木学術財団（編）1955-61. 『影印北京版西蔵大蔵經』東京、京都。

- Uspenskij, V. 1988. "Buddijskij kanon." E. I. Osetrov (ed.) *Kniga mongolii*. (Al'manakh bibliofila 24) Moskva, pp. 191-200.
- Vladimirtsov, B. Ya. 1921. *Mongol'skij sbornik razskazob iz Pañcatantra*. Petrograd.
- 趙冬生 1994. 「山西曲沃縣廣福院發現宋金（齊）佛經」『文物』1994-7, pp. 44-51.
- Zieme, P. 1981. "Bemerkungen zur Datierung uigurischer Blockdrucke." *Journal Asiatique* 269-1/2, pp. 285-299.
- Zieme, P. 1985. *Buddhistische Stabreimdichtungen der Uiguren*. Berlin. (Berliner Turfantexte 13)
- Zieme, P. 1994. "Hatte der Große Bär bei den Uiguren neun Sterne?" *Memoriae Munusculum. Gedenkband für Annemarie v. Gabain*. Wiesbaden, pp. 149-154. (Veröffentlichungen der Societas Uralo-Altaica 39)